

# 夏秋トマトのすずかび病の防除対策

農業研究部

## 1. 研究の背景

大分県の夏秋トマト栽培で問題となっているすずかび病について、発生消長と薬剤感受性検定、防除試験を実施した。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

すずかび病は、早ければ6月上旬、通常6月下旬から7月上旬にかけて初発を認め、7月中旬以降発生が急増する。また、発病後の治療効果が低いことから、発病前の予防散布が重要であるため、下記の防除体系案を作成した(表1、2)。薬剤感受性検定の結果から、アミスター20フロアブルは効果が期待できないので使用しない(データ省略)。ファンタジスタ顆粒水和剤は発病が見られたときに1回だけ使用する。定植以降約10日間隔(各月とも旬ごとに1回)のペースで防除する。ファンタジスタ顆粒水和剤とゲッター水和剤は、感受性検定の結果は良いが防除効果試験の結果が悪いので、前後に保護殺菌剤の防除で挟む。

表1 防除体系の事例

防除時期	農薬名
5月	上旬 コサイド3000 または ジーフライン水和剤
	中旬 コサイド3000 または ジーフライン水和剤
	下旬 ジマンダイセンフロアブル
6月	上旬 ダコニール1000
	中旬 ゲッター水和剤
	下旬 ベルクートフロアブル
7月	上旬 ダコニール1000
	中旬 パンチョTF顆粒水和剤
	下旬 ダイアメリットDF
8月	上旬 ダコニール1000
	中旬 トリフミン水和剤
	下旬 オーソサイド水和剤80
9月	上旬 ダコニール1000
	中旬 アフェットフロアブル
	下旬 ダイアメリットDF
10月	上旬 ジマンダイセンフロアブル
	中旬 スミブレンド水和剤 または ゲッター水和剤

左の体系のうち、初発確認後の最初の防除薬剤をファンタジスタ顆粒水和剤に置き換える

注) ファンタジスタ顆粒水和剤は感受性低下の兆しがあるので、年1回の使用とする。

表2 予防散布(保護殺菌剤)と治療剤の効果(2015年)

農防除試験の方法	農薬名	防除値
保護殺菌剤を用いた	ダコニール1000	99.2
予防散布による	ジマンダイセン水和剤	96.2
防除効果	オーソサイド水和剤	88.9
治療効果を期待した	ベンレート水和剤	58.5
発病後の散布による	トリフミン水和剤	58.3
防除効果	ゲッター水和剤	44.9
	サンヨール	21.3
	アミスター20フロアブル	20.4
	カリグリーン	19.9
	ファンタジスタ顆粒水和剤	17.1

## 3. 期待される効果

各地域における防除体系に利用し、すずかび病の効果的な防除が可能となる。

## 4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

TEL: 0974-28-2078

住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8